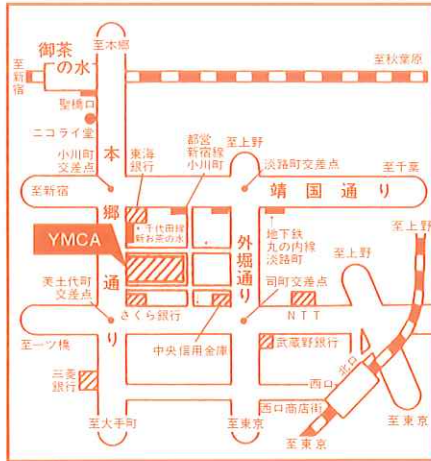


参加対象 教員、社会・環境教育関係者、NGO関係者、一般
 定員 100名
 参加費 7,000円

※なお、なるべくゴミを出さないように、お願いいたします。



■東京YMCA国際奉仕センター

JR

- 神田駅 出口(西口、北口)
- 御茶の水駅 出口(聖橋口)

地下鉄

- 丸の内線 淡路町駅 出口(A-2・A-4)
- 千代田線 新お茶の水駅 出口(B-6)
- 都営新宿線 小川町駅 出口(A-6)
- 銀座線 神田駅 出口(北口)

★参加ご希望の方は、別紙の申込書にご記入のうえ、下記の住所宛にお送りください。また、参加費は指定の郵便振替口座にお振り込みください。
 〒114 東京都北区東田端1-14-1 岩瀬ビルF ERIC「グローバル・セミナー」係 ☎03-3800-9416 担当：久保
 参加費用振込先 郵便振替口座：00180-5-710744
 加入者名：ERIC (通信欄に「グローバル・セミナー」と明記してください)

後援 文部省、環境教育学会(予定)、全国地理教育研究会、全国高等学校国際教育研究協議会、全国高等学校長協会、開発教育協議会

開催日程 1996年6月29日(土)～30日(日)
 会場 東京YMCA国際奉仕センター 東京都千代田区神田美土代町7-1 ☎03-3293-7011

主催 国際理解教育センター (ERIC)
 協力 東京YMCA国際奉仕センター

1996.6.29-30 SEMINAR

国際理解教育研修プログラム「グローバル・セミナー」開催のご案内

GLOBAL

【開催主旨】

地球環境問題、南北問題、冷戦構造の時代背景は現在大きな変化の最中にあります。溢れる情報、大量消費大量生産を続ける先進国、開発を模索する途上国はそれぞれこれまでと違った課題に直面し、地球規模で解決しなければならない課題は新しい解決策、行動を必要としています。こうした時代にあって、「地球市民」の自覚を持って考え行動することがますます求められています。

すでに教育の国際化への取り組み、英語教育や帰国子女教育の実践が行われていますが、1974年のユネスコ国際教育勧告、そして1994年に再度強調された環境、人権、開発、平和等の分野をカバーした広い意味での国際理解教育の取り組みは、市民グループの努力の積み重ねにより広まりつつあるものの未だ十分に行われているとはいえません。

一方、イギリス、オランダ、オーストラリア、アメリカなどでは、教育現場（学校教育、社会教育）でさまざまな形の国際理解教育が開発されており、その実績には目をみはるものがあります。それらの成果の一部は日本にも紹介されるようになりましたが、まだまだ限られています。

このような状況のもとに、青少年育成・国際協力活動等社会教育の推進に110余年の歴史をもつ東京YMCAの協力を得て、内外の実践紹介を中心に、国際理解教育の教材開発、研修を実施している国際理解教育センター（ERIC）の主催で、「地球市民」を育てる教育方法を学ぶ研修することになりました。

今回のセミナーでは、統計的思考、資料活用能力に注目しています。国内外の講師を招き、膨大な情報の中で私たちがデータを把握する、定量分析をする、意味とデータをつなぐ力をつけたり、そうした行動を自らとれるようになるための基礎を作るワークショップや、統計を活用したアクティビティを体験してもらいたいと思います。さらに、このような研修積み重ねを中心に、日本における国際理解教育・環境教育の内容を深め、その普及を推進したいと思います。

GLOBAL SEMINAR

●講師及びファシリテーターに御協力いただける方

パメラ・バッサマン

ゼロ・ポピュレーション・グローブ（ZPG）というアメリカ最大の人口問題に取り組むNGOの所長。人口問題に関する、小学校及び中学校向けの教材開発を行ってきた。「For Earth's Sake: Lessons in Population and the Environment (Grade 6-10)」「Earth Matters: Studies for Our Global Future (Grades 9-12)」など多数。また、北米環境教育協会、全米科学教員協会、自らの最も関心のある「人口と環境」のグループがある社会科学審議会のメンバーでもある。ブラウン大学卒業。1988年よりZPGに参加。

飯沼慶一

（私立成城学園初等学校）

梅村松秀

（都立竹の台高等学校）

北谷勝秀

（UNDP上席顧問）

中島大

（分散型エネルギー研究会）

青沢広祐

（ともに生きる地球プロジェクト）

PROGRAM

6月29日(土)：データに親しもう

9:15 受け付け開始

10:00 研修開始

研修Ⅰ：ワークショップ「東京データさがしガイドマップ」を作ろう

定量的に把握して次を！ そんな人にもっと増えてほしい！ マップを作ろう！

研修Ⅱ：ジェンダーの視点をとらえる「データ化するアクティビティオンパレード」

PRA(参加型地域評価法)の手法に学びながらジェンダーについて理解を深めます

研修Ⅲ：街に出よう「データと実体をつなぐ一身の回りの情報をデータ化する」

データは様々な情報の別な表現。外に出かけてデータをひろってこよう

研修Ⅳ：データでメッセージを伝える「公正さの数量化ー環境容量の概念に学ぶー」

持続可能なライフスタイル、そしてビジョンをデータを使って具体化・定量的に提案する

昼食各自

17:00 各研修の成果発表と共有

19:00 終了

6月30日(日)：「地球のみかた」(Earth Matters)のアクティビティを体験する

9:30 受け付け開始

10:00 研修Ⅰ「人口と消費」(英語で研修)

研修Ⅱ「人口と消費」(日本語で研修)

研修Ⅲ「大気と水」

研修Ⅳ「成長とエネルギー」

13:00 昼食各自

14:00 講演と研修のふりかえり

パメラ・バッサマン

質疑応答

16:00 終了

懇親会

地球のみかた「Earth Matters」

アメリカのNGOゼロ・ポピュレーション・グローブが出版した環境教育の教材。統計の活用、ディベート、模擬会議、調査、ロールプレイ、理科の実験、ジレンマゲームなど様々な手法が取り入れられ、地球をめぐる多くの課題について、問題の構造、解決策の模索が積極的に図られるようたくさんのアクティビティが紹介されています。各章のとびらには、その章が扱っているテーマの背景や状況（合衆国例をあげながら）についても記されており、地球環境問題の全般的な理解にとってもすぐれています。

定価 2,575円（税込み）予定

郵便振り替え口座に前払いでお求め下さい。(送料：一律400円、口座番号 00160-3-547794、

加入者名：ERIC)

ワークショップを实践体験

東和の地球市民塾 米国の専門講師招き

若い世代の姿目立つ



環境教育や国際理解教育をテーマに東和町国際交流協会主催の「イーハトーブ地球市民塾」が三日夜、町

環境教育や国際理解教育をテーマに東和町国際交流協会主催の「イーハトーブ地球市民塾」が三日夜、町

総合情報センターで開かれた。米国の専門講師を招き、参加型の学習・ワークショップを実際に体験しながら

さまざまな学習手法を学んだ。同塾は、町の新しい総合開発計画にも盛り込まれた「地球市民の養成」を目指す試みの一つ。近年注目されるワークショップの手法を実践的に学びながら地域づくりを考えようと、同協会が町教育委員会、県国際交流協会、国際理解教育センターの協力を得て開催した。

参加者は、環境や国際理解に関心を持ち活動している盛岡や花巻、町内の十七人で若い世代の姿が目立った。米国の人口問題教育アドバイザー、パメラ・ワッツマンさんが学習の促進

者（ファシリテーター）を務め、国際理解教育センターの田中幸子さんの通訳で学習を進めた。人口問題に関するビデオを見たあと、参加者が数グループに分かれ、ワッツマンさんが三十二種類に分類する「アクティビティ」と呼ばれるワークショップのプログラムのうち四つの手法を体験。

ワークショップの学習手法を実践的に学んだ「イーハトーブ地球市民塾」

世界各国の人口ピラミッドの作製、チョコレートやつまようじを用いた各大陸やアジア各国の食糧や消費エネルギーの比較・分配のほか、人口増から連想される事柄を関連づけながら模造紙に書き表したり、環境倫理の個々の価値観や考え方を検証するジレンマ・カードに取り組んだ。ジレンマ・カードは、た

たとえば「来世紀までに人口が三倍になると予想される。子供を愛し、大家族を持ちたいと思っているあなたはどうするか?」の問いに、▽いずれにしても大家族を持ちたい▽子供を持たないことにする▽子供を一人か二人にする▽その他の選択肢から選び、その意思決定に責任を持ち説明するといった方法。

学習は夜遅くまで熱心に行われ、高校生は「学習への興味や地球への関心がわく。学校の授業にもぜひ取り入れてほしい」、他の参加者も「初めての体験だったが、四時間たつぷり楽しめた」「自分でも企画してみたい」と感想を話した。ワッツマンさんは「参加者一人ひとりがたくさん学ぶことを学び、教え合えるのがワークショップの醍醐味で、きょうはそれが十分にできたと思う」と評価し「今後、地域に合ったアクティビティを試行錯誤しながら開発してほしい」と語った。

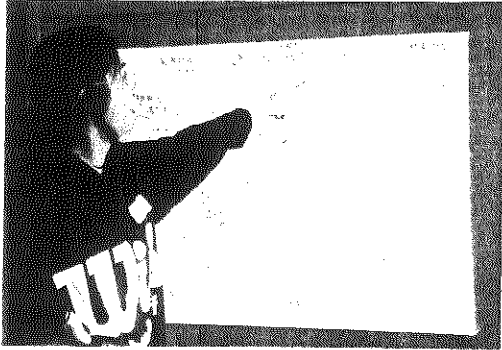
町国際交流協会では「学校関係の先生は平日のためか参加はなかったが、関連資料があるので関心のある人はぜひ活用してほしい」と話していた。問い合わせは、同協会（電話0198-4213239）へ。

なお今月二十日には、県国際交流協会主催の国際理解教育巡回講座「ワールドスタディキャラバン」（第一回）が同町総合福祉センターで開かれる。

Teachers' PET Term Paper

Fall 1996

on Population Education Training



EARTH MATTERS Turns Japanese

For two weeks last summer, Pam Wasserman, Director of ZPG's Population Education Program, conducted a whirlwind workshop tour in Japan to kick off the recently translated Japanese version of *Earth Matters*, ZPG's secondary level teaching kit. Thanks to a collaboration with the International Education Resource and Innovation Center (ERIC) in Tokyo, Japanese educators now have access to ZPG's teaching activities.

"Resource consumption, land use, waste disposal and fertility trends are as great a concern in Japan as they are in the United States," says Wasserman. "Yet few curriculum resources have been developed to teach students in the K-12 classroom about the impact of people on the Earth. The non-governmental organizations (NGOs) in Japan committed to furthering environmental and development education look to the United States for suitable teaching resources."

It was with this mission that Naoko Kakuta, ERIC's director, visited ZPG's office last Fall to secure permission to translate and distribute *Earth Matters*, with which she had become familiar at conferences of the North American Association of Environmental Educators (NAAEE). Two years ago, *Earth Matters* had received the highest rating from the California Department of Education for an environmental education resource about human communities.

What Ms. Kakuta found most appealing about the book of teaching activities and readings is that "it combines environmental, development and social issues. Few environmental curriculum guides contain material on gender equity and the economics of rich and poor."

To bring *Earth Matters* to Japanese educators, ERIC staff and volunteers spent the first half of 1996 translating and adapting the text to fit Japanese realities. For instance, there is no Japanese word for "carpooling," since driving in Japan's densely-populated cities is highly impractical, as well as unnecessary, thanks to comprehensive mass transit.

Pam worked closely with the Tokyo staff of ERIC on the leading event for her visit, the Global Seminar, an annual two-day symposium in Tokyo which brings together teachers, youth workers, academics and NGO staff. With this year's theme



ERIC participants construct continents of yarn for "Food for Thought" activity.

focusing on *Earth Matters*, sessions emphasized several topics—population dynamics, energy use, air and water quality and gender equity.

Pam's presentations were then taken on the road (or, rather, on the bullet train) for half and full-day workshops in Osaka, Okayama and northern Honshu. Although most workshop participants were not accustomed to the hands-on style of ZPG activities, they were very receptive to the games and role-playing that make population education so effective. "You can explain the same thing by words," wrote one participant, "but students cannot feel the reality the way they do in the activities."

Pam found that some activities needed more adaptation than others. For example, the activity "Eco-Ethics," which asks students to select from several items for their future dream house, (solar heating, a recreation room with a fireplace, a greenhouse, or a swimming pool), elicited great laughter from the translators. In a country four percent the size of the United States, but with 50 percent of its population, real estate is at a great premium. Most Japanese homes are small by American standards, and virtually every spare hectare is cultivated with rice paddies.

Pam also spent time in Tokyo training ERIC staff to continue population education work in Japan. ZPG activities will now be incorporated into the repertoire of workshops they facilitate throughout the country. "This collaboration is just the beginning of what we hope will be a long partnership with ERIC and of ZPG's growing presence around the globe," Wasserman says.